



あたらき大地

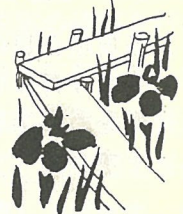


大阪木材工場団地協同組合

1984年5月号

NO2

当団地内に“木材利用普及 研修センター”が設置される！

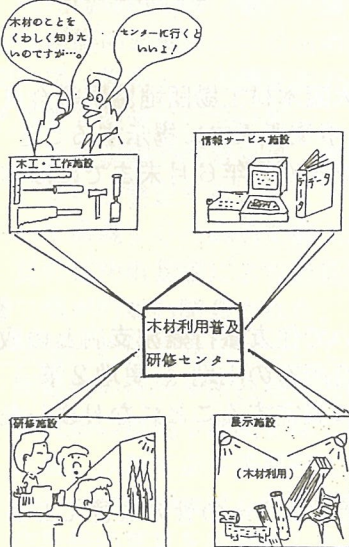


林野庁では、昭和59年度の新規事業に、木材利用促進体制整備事業の一つとして、“木材利用普及研修センター”を設置することが決まった。

この事業は、全国の主要消費地を拠点とし、一般消費者・建築設計・工事の人々に対して木材利用の啓発、普及、木材産業における人材育成等を推進するため ① 木材製品の展示 ② 木工工作 ③ 情報サービス及び ④ 研修等の多目的機能を有する施設を設置し、其の高度利用をはかることを目的とした画期的な構想である。このセンターの設置受入れに当っては、種々の条件が付随しているが当組合としてはさきに組合員に対する長期ビジョンのためのアンケート調査を実施した組合員の要望の中に当木材団地のイメージ向上のためのPRや木材産業に関する情報収集の希望、組合員を対象にした勉強会、講習会の要望が多く寄せられた。これらを解決するためには、是非この木材利用普及研修センターの誘致が最適であるとして、中川理事長自ら大阪府、林野庁に働きかけ、又国会・府会の先生方をはじめ、故竹田全木連会長の応援も得て、府木連を通じ大阪府へ申請していたも

のであるが、組合員の熱意も受けいれられ、漸く施設予算が認められ、去る4月11日に内定したものである。

なお、初年度は設置の条件を満たす地域として全国で大阪と熊本の2カ所に設置されることとなった。建設予定地は現在の組合会館に隣接した約300坪の敷地内で、施設の内容は会議室（研修会場）、常設展示場（木材加工品等の展示場）、木工工作場（木工技術研修、一般中高年令者の趣味と生き甲斐を味わう木工教室など）それに事務所を備えた木造二階建、延面積200坪の建物となる。総工費は約1億円で、うち国が半額、大阪府が4分の1（9月補正予算）の各助成があり、残額の4分の1は自己資金となる。組合では「木材利用普及



研修センター設置委員会」(委員長は榊紅中の中村暢秀氏)を設け具体的な建設準備構想や今後の運営方法などを検討していくこととなるが木材業界として又当組合にとっても初めての試みであるだけに関係各方面から大きな期待と注目が寄せられている。なお、此のセンターの建物施設材料等については、木材をふんだんに使用するよう要望されているため、組合員の各製造品を積極的に取り入れることにしており、従って協力品目を各社から募集することになっているのでご希望の方は当委員会まで申し出下さい。

【理事会の議事録から】

1. 新規組合員の加入について

去る4月3日付で下記の2企業の組合加入が承認されました。何れも大阪市内に本拠をもつ業歴の深い企業で当団地内では夫々流通の拠点として事業が運営される予定です。



企業名	山王木材(株)	福井木材商店
代表者	岡田勝利	福井保男
資本金	414百万円	
従業員数	96名	7名
営業種目	木材・建材販売	木材販売
用地の譲受先	大阪単板工業(株)	南北木材(株)
立地面積	約670坪	705坪

2. 第22期通常総会の開催について

例年5月に行われる組合の通常総会が今年度は大阪市内で次のとおり開催されることに決まりました。具体的な内容、スケジュール等については追ってご案内致します。

(開催日時) 昭和59年5月29日(火)14:00~
(開催場所) ホリディイン 南海・大阪(大阪市南区久左衛門町)

3. 木材利用普及研修センターの設立について

林野庁が昭和59年度の新規事業としてはじめる木材利用普及研修センターを当団地内に誘致することになりました。なお詳細については一面の記事を参照されたい。

4. 「組合員章」の作成について

団地内の組合員事務所を対外的に明示するため、今回「大阪木材工場団地協同組合員の章」を記したパネル(集成材)を作成し、各組合員の事業所入口に掲示することになりました。パネルの大きさ、規格等は現在検討中ですが今年6月末までには作製し、皆様に配布される予定です。

5. 住友銀行に対する組合所有土地の担保提供について

組合金融事業を推進するため、既取引中の商工中金に次いで住友銀行難波支店との取引を開始することとなり、借入のための担保として、組合所有の土地(更地2筆)4972.74㎡に対して根抵当権350百万円を同行に設定することになりました。

6. 住宅団地内の污水管の修理

住宅地S-2の東側道路の污水管が一部破損したため、延長27mの管の取替え工事が行われました。工事費は723,000円。

《組合員企業の紹介シリーズ》『うちの会社』

【その2】 株式会社葵建装 社長 橋本 健介



昭和44年12月、木材の有効利用と、建築現場での省力化をめざして設立しました。中川木材店の用地のうち830坪を割愛していただき、別会社として発足し、現在木材の加工部と工事部との二つの部門があります。★木材の加工の方は、マンションと木造戸建住宅の造作材の加工をメインに、公園のベンチ、パーゴラの加工、ぬれ緑の製造販売、貸加工(プレナー等)を行なっています。★最近枿材は寸法カット、止め加工、釘穴を開けて納入する現場も増え、まだまだ工場での加工度が増していくと考えています。★工事部の方は、マンションの造作工事と木造戸建住宅の建築を行なっています。★数年前より日本でも増改築工事がさかんに話題にのぼるようになりましたが、アメリカではすでにリモデリングという専門の業態があり、現在約11兆円の需要があるとされています。★わが社も昨年より、リモデラー:アオイとして、増改築工事に取り組んでいます。ぜひ近くの方が社にご相談いただきますようお願い申し上げます。また、お知合いの方もご紹介下さいませ。★物置や犬小屋の材料、工作の材料をご入り用の方は毎週土曜日の午後ご相談に応じます。

リモデラー担当; 社長、嶋岡、鱗川、本田、大畑

日曜大工材料担当; 社長、中田 [☎61-0931(7177)]

【団地内のうごき】

* 団地内の道路の一部交通規制の実施について

去る4月1日より、団地内中央通り(組合前より東へ旧309号線までの間)を交通安全上、終日駐車禁止の規制が実施されることになりましたので、駐車に関しては十分な配慮をお願いいたします。

* 団地内の道路工事について

現在団地内では(協)大阪ツキ板センター倉庫前の延長190mの道路と、住宅地の善能池西側南北延長200mの道路を夫々舗装工事中です。完成は5月末の予定で、工事期間中は、何かとご不便をおかけしますが何卒ご容赦ください。

* 木栄会の発足について

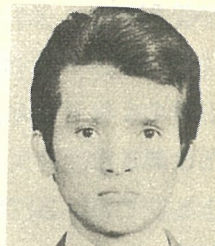
会員の研修や情報交換、親睦等を図るための『木栄会』が関係各委員の努力によって、いよいよ発足することとなり、去る4月27日(金)午後5時45分より組合会館において会員100余名で盛大に創立総会がおこなわれました。総会後の懇親会で中川理事長の乾杯の音頭により会員同志の一致協力を誓い、『木栄会』の今後の発展を期して万歳三唱が行われ閉会された。

* 団地内の住居表示について

団地内の住所や所在地が現行の表示(例えば菅生1200~18...)では分りにくく、郵便物の誤配や遅配をはじめ、第三者の所在地確認が手間どるなどのケースが多かったため、かねてより美原町に分り易い住居表示の命名を要望していたところ、漸く今回、新しい字名がつけられる運びとなりました。新字名については、アンケート方式で地元住民等の意見を参考にし、最終的には美原町で決定されることになっています。

『ちょっと一言』

(株) 紅中 中村 暢秀



我々木材人の口から元気の良い希望溢れる言葉が消えてしまって久しいが、もう出番はまわってこないのだろうか。「あきまへん、さっぱりですわ!」とサディスティクな笑いを含んだ顔つきで、さえない会話がかわされる今日此頃です。ところが美原の団地に入ると、どこにでも見られる雰囲気とややおもむきが違うなと感じるのは私だけではありますまい。ニューフェイスの参加が相つき、建設の槌音が響き、街路がつぎつぎに整備され、活気がひしひしと伝わってきます。私は市内からこの団地に入って来るたびに何か誇らしい、そして気恥かしい思いにかられ、ひとり苦笑いしています。そうです、私共はまだこの団地のメンバーに加えてもらって数年にしかならない新参者なのですが、仲間に入れてもらえたことを、大変誇りに思い、また感謝しております。今年の中川理事長、念願の木材普及センター誘致の話も本決まりとなり、その勇姿を団地内に現わすのもそう遠くはありません。誠に光栄なことにその設置委員長の大役をおおせつかり、責任の重さを痛感しております。一生懸命努力致しますのでご指導の程お願いします。この普及センターはひとり美原団地だけのものではなく、大阪木材界のシンボルとなり財産となるものです。どうか皆様方のすばらしいアイデアのご提供を心よりお願い申し上げます。

【組合事務局だより】

木材産業は今後、多種多様な製品を需要者のニーズに応じて弾力的に生産できるような企画力や技術力をもった高付加価値型産業に展開していく必要があります。

つきましては先般、理事会でも提案がございましたが、組合員の中でこれらを反映させた新製品の開発や生産のノウハウ等について、PRしたいものがございましたら本紙上で積極的に紹介していきたいと思っておりますので、組合事務局までお申し出下さるようお願いいたします。

編集後記

“あたらしき大地” 5月号はいかがでしたか? まだまだ未熟な編集でございますが、なおいっそう努力致しますので、あたたかいご支援お願い申し上げます。

また本紙についてご意見、ご要望等がございましたらご遠慮なく組合事務局、編集係(田中)までお申し出下さい。